

資料－3

第3回北海道開発局低頻度大水害ハザードマップ検討会 議事概要（案）

日時：平成24年11月30日（金）13:30～

出席者： 座長：清水委員（北海道大学）

委員：安部委員（むかわ町役場）

伊藤委員（寒地土木研究所）

中津川委員（室蘭工業大学）

渡辺委員（江別市役所）

事務局：北海道開発局河川計画課：原課長、小林河川調整推進官

○議事2．低頻度大水害の氾濫の特徴について

○議事3．低頻度大水害ハザードマップ作成指針（案）について

◆清水座長

- ・低頻度大水害の前段として既存のハザードマップがあることが前提なのか。
- ・既存のマップと今回の指針に基づいたマップと重複して持つことになるのか、それともまとめるのか。

■事務局

- ・計画洪水に対しては既に作成済み。
- ・市町村の判断によるが、既存のハザードマップを補足し、各自治体の防災担当者の危機管理能力の向上を図ることを目的としており、すぐ配布するという形ではなく市町村で活用することを想定している。

◆渡辺委員

- ・市民周知の観点から非常に重要だが、こういったマップがあることによって過剰反応が予想され、マイナス面もある。
- ・複数の大きな河川が合流している地域であるため破堤箇所によって大きく記載内容が異なってくる。

◆中津川委員

- ・公表の扱いはどうするのか。

◆清水座長

- ・今までは議論する材料すらなかったが、予測がある程度できるようになってきたので引き続き皆で検討していきたい。

◆中津川委員

- ・地域防災計画についても作成指針に書かれているが、現行の計画を見直すのか、別枠で低頻度に対する計画を作成するのか。

■事務局

- ・低頻度である・ないに関わらず、ソフト対策は同じ部分があると考えており、現行から更に想定される事態について配慮すべき事項・検討など膨らみを持たせた形で計画を作成したほうが良いのではないかという提案にとどめている。

◆中津川委員

- ・素案として地域防災計画を改定・作成することは非常に重い話であり、この委員会の範囲外ではないか。

■事務局

- ・現行、計画を超える大水害時において、避難経路や避難場所の検討なしでマップを作成するのは不可能と想定している。

○議事4. 中小河川ハザードマップの進め方について

◆中津川委員

- ・早苗別川の計算結果において、放水路で氾濫している絵になっているが、これは問題ではないのか。
- ・計算手法は内水・外水どちらの計算モデルなのか。下水道や排水路は考慮しているのか。

■事務局

- ・放水路自体も1/10なので氾濫している可能性がある。
- ・計算は内水モデルである。下水道等はまだ組み込まれていない。

◆中津川委員

- ・連続的なハイドロを決めるために、合理式ではなく一般化貯留関数法への変更や検証を行ったほうが良いのではないか。

■事務局

- ・今回は防災担当者が自ら計算できることを目的として合理式を採用している。

◆阿部委員

- ・本川と支川で全く違う水の出所となるが、本川の浸水区域に支川の浸水が更に追加されるという事で良いのか。

■事務局

- ・早苗別川のような大河川と氾濫エリアが共通であるところは追加のイメージで問題ない。似湾別川のようなそのまま大河川に流入するところはその流域自体が持つ水の氾濫区域となる。

◆中津川委員

- ・早苗別川でポンプは稼働するのか。安全面から言ってもポンプ停止状態で考えたほうが良いのではないか。

■事務局

- ・プログラム上では排水量あり・なしどちらでもできる。中小河川が先行して氾濫する

という事態を想定すれば排水機場の効果は見込んだ方が良いと思われるが、最大浸水深を見る場合などは効果を見込まないという方法もとれる。

◆清水座長

- ・この間、南利根別川が氾濫した事例では、石狩川や夕張川などの水位が高くなった影響ではなく自流によって上流が数多く氾濫したことから、逆流で溢れたり、支川上流だけ集中豪雨があったりと様々なパターンに使えるツールと思われる。

◆伊藤委員

- ・今回の氾濫計算では水位が堤防高より高いのか。

■事務局

- ・今回の 2 河川はいずれも掘り込み河道なので地形情報のみで計算しているが、仮に有堤河川だと国土地理院のデータでは堤防を考慮した情報が無いので、測量データに置き換えないと正確な表現はできない。

◆清水座長

- ・これからは市町村担当者が解析するのか、開発局がある程度まで解析してくれるのか。

■事務局

- ・河川指定されている中小河川でも千以上あるので、基本的には市町村担当者が計算していただきたいが、要請があれば講師として説明・モデル的な計算は行いたいと思っている。